

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和7年1月1日～令和7年7月6日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	134	27	4	63	62	156
令 和 6 年	113	24	0	46	63	133
前 年 同 期 比	21	3	4	17	-1	23

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	18	13.4%	5	0	9	6	20
	後立山	27	20.1%	5	1	12	21	39
	その他	25	18.7%	0	0	18	10	28
計		70	52.2%	10	1	39	37	87
中央アルプス		10	7.5%	4	1	3	3	11
南アルプス		2	1.5%	0	1	1	0	2
八ヶ岳連峰		17	12.7%	3	0	10	5	18
その他の山岳		35	26.1%	10	1	10	17	38
計		134		27	4	63	62	156

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	46	34.3%	15	0	33	0	48
転 倒	25	18.7%	1	0	24	0	25
病 気	7	5.2%	3	0	0	4	7
道 迷 い	20	14.9%	0	0	0	32	32
落 石	2	1.5%	0	0	2	0	2
雪 崩	2	1.5%	1	0	1	1	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	7	5.2%	0	0	0	8	8
不明・他	25	18.7%	7	4	3	17	31
計	134		27	4	63	62	156

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	3	3	28 24.8%	0	0	0	0	0	9 20.9%	3	37 23.7%
20代	1	0	2	10	13		0	0	1	4	5		18	
30代	3	1	3	5	12		0	0	2	2	4		16	
40代	4	1	8	4	17	45 39.8%	1	0	6	2	9	20 46.5%	26	65 41.7%
50代	6	0	10	12	28		0	0	8	3	11		39	
60代	5	1	8	9	23	40 35.4%	0	0	8	1	9	14 32.6%	32	54 34.6%
70以上	7	1	4	5	17		0	0	3	2	5		22	
計	26	4	35	48	113		1	0	28	14	43		156	
比 率	72.4%						27.6%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（6/30～7/6）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
7月2日	北アルプス 五竜岳	男	55	負傷	滑落	2人パーティで五竜岳に向けて登山中、滑落、負傷
7月3日	ハケ岳連峰 天狗岳	女	61	負傷	転倒	2人パーティで天狗岳から唐沢鉱泉に向けて下山中、転倒、負傷
7月4日	苗場山	女	73	無事救出	発病	2人パーティで苗場山山頂から下山中、発病により、行動不能
7月4日	北アルプス 白馬岳	女	43	負傷	落石	4人パーティで猿倉から入山し、大雪渓を登山中、落石により負傷
7月5日	四阿山	男	51	無事救出	疲労	単独で根子岳から四阿山に向けて縦走中、疲労により、行動不能
7月5日	中央アルプス 南越百山	男	71	死亡	発病	5人パーティで大平登山口から入山し、南越百山山頂付近で発病
7月6日	北アルプス 常念岳	女	66	負傷	転倒	3人パーティで常念岳から一ノ沢に下山中、転倒、負傷

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、7件の山岳遭難が発生し、うち1件は死亡遭難でした。

白馬大雪渓で発生した落石による遭難は、大事には至らなかったものの、落石を受けた箇所が一步間違えれば、致命傷になっていたかもしれません。雪渓上の落石は、音を立てずに静かにものすごい勢いで落ちてきます。白馬大雪渓等の雪渓が残っている場所を歩く際には落石に十分注意しましょう。

また、先週に発生はなかったものの、白馬大雪渓では、装備や技量不足による遭難が多発しています。麓では暑い日が続いていますが、大雪渓では残雪が多く残り、**アイゼン・ピッケル**が必須かつ、それを使いこなす技術も必要です。

しっかりと自分のレベルにあった山域を選択するとともに、**事前の下調べ・登山計画**を立て、登山をしましょう。

7月に入り、麓では30度を超える真夏日が続いていますが、山の上でも気温は高く、大量の汗をかき、**体調不良・疲労**による遭難も多発してきます。登山中は、トイレを気にして水分補給を控える人もいますが、熱中症になってしまえば、元も子もありません。行動中は、**こまめな水分・塩分補給**を心掛けるとともに、登り始める前にも、目安として500mlの水分を取ってから登山を始め、熱中症対策もしっかりとしましょう。